

**製品名: EphA7 (リン酸化Tyr791) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04615**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	112kDa

**抗原情報**

遺伝子名	EPHA7
別名	EPHA7; EHK3; HEK11; Ephrin type-A receptor 7; EPH homology kinase 3; EHK-3; EPH-like kinase 11; EK11; hEK11
遺伝子 ID	2045.0
SwissProt ID	Q15375
免疫原	ヒト EphA7 のリン酸化部位（リン酸化 Tyr791）周辺の合成リン酸化ペプチド

**背景**

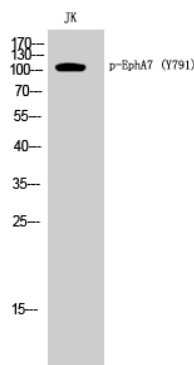
この遺伝子は、タンパク質チロシンキナーゼファミリーのエフリン受容体サブファミリーに属する。EPH および EPH 関連受容体は、

特に神経系において、発達過程の媒介に関与していることが示唆されている。EPHサブファミリーの受容体は、通常、単一のキナーゼドメインと、システインリッチドメインおよび2つのフィブロネクチンタイプIIIリピートを含む細胞外領域を有する。エフリン受容体は、細胞外ドメイン配列の類似性と、エフリンAおよびエフリンBリガンドへの結合親和性に基づいて、2つのグループに分類される。この遺伝子の発現増加は、複数の形態の癌と関連している。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq提供、2013年12月],触媒活性:  $ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸$ 。機能: エフリンAファミリーメンバーの受容体。エフリンA1、A2、A3、A4、A5に結合します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンキナーゼファミリー。エフリン受容体サブファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含みます。類似性: SAM (無菌 $\alpha$ モチーフ)ドメインを1つ含みます。類似性: フィブロネクチンIII型ドメインを2つ含みます。サブユニット: PRKCABPおよびGRIP1と相互作用します。組織特異性: 広く発現しています。,

## 研究分野

軸索ガイダンス;

## 画像データ



リン酸化EphA7 (Y791) ポリクローナル抗体を用いたJK細胞のウェスタンブロット解析